

2月4日
SUN.

第28回

ヨコハマ



映画祭

関内ホール(大ホール)
入場料(前売)2,500円(税込)
(当日)2,800円
●自由定員制

今、日本映画が熱い!

ハマの冬の風物詩・日本映画の祭典ヨコハマ映画祭の季節がやって参りました。2006年の日本映画は豊年満作、その素晴らしい成果と共に、ヨコハマ映画祭も熱く燃え上ります。

祭りのクライマックスは、2006年に最高に輝いた映画人たちが勢揃いする個人賞表彰式。西川美和監督作品「ゆれる」がグランプリ・監督賞・脚本賞・主演男優賞計4冠を獲得しました。

映画上映は、「ゆれる」に加え、ベストテン第2位李相日監督作品「フラガール」、2冠に輝くご当地映画中村高寛監督作品「ヨコハマメリ一」の3大傑作。2月4日は、映画ファンのための「映画の日」。

さあ、みんな横浜・関内ホールに集合!

●プログラム

10:30AM 開場

11:00AM 「フラガール」(120分)

(ベストテン2位、主演女優賞)

監督=李相日 脚本=李相日、羽原大介 撮影監督=山本英夫

美術監督=種田陽平 企画・制作・配給=シネカノン

出演=松雪泰子、豊川悦司、蒼井優、山崎静代、岸部一徳

これは寂れゆくまちを救おうと立ち上がった女たちの物語である。昭和40年、「常磐ハイアンセンター」立ち上げの“プロジェクトX”として、炭坑町の盛衰史に民衆のひたむきな生きざまと哀感を重ね見事な出来栄えとなつた。最初は「ケツ振れねえ」「へソ丸見え」と逃げ腰だった田舎娘たちだが、フラダンスを生きるうえでの表現として手を入れていく変貌ぶりに、観客は、一緒になって泣き、笑い、そうしてクライマックスに拍手喝采することになる。日本に生まれてよかったと思わせる超娯楽作の誕生だ。炭坑住宅という村社会の因襲にも縛られず、都会への憧れにも流されず、あらゆる困難を克服して輝く主人公=紀美子を蒼井優がたおやかな存在感としたかな演技力で生き抜いて見せてくれる。その驚異的な美しさたるや“映画のミューズ”と呼ぶしかない素晴らしいものである。時代背景を忠実に再現した、撮影、美術・セットの力も特筆もので、加えて、富司純子、豊川悦司、しづちゃんら演技陣がしっかりと脇を固めている。「フラガール」を観ずに映画は語れないと言断してしまうのだ。

1:25PM 最新作PRコーナー 予告編上映と舞台挨拶

2:00PM 個人賞表彰式

各賞受賞者のほかゲスト多数予定

4:00PM 「ヨコハマメリ一」(92分)

(ベストテン6位、新人監督賞、審査員特別賞)

監督・構成=中村高寛 撮影=中澤健介、山本直史

写真=森日出夫 配給=ナインエンタテイメント

出演=永登元次郎、五大路子、杉山義法、清水節子、山崎洋子

その映画は2006年の日本映画界を震撼させた。中村高寛という弱冠30歳の青年があくなき執念で追ったヨコハマの“影の顔”。歴史の表層では決して語られることのないハマの“真実”が容赦なく暴かれていく。メリ一さんと呼ばれた白塗りの娼婦を知る人々の様々な証言。われわれハマに生きる人間にとって、メリ一さんは自己の差別意識を試されるリトマス試験紙だった。メリ一さんを母親のように慕ったゲイのシャンソン歌手・永登元次郎とのつながり。メリ一さんは老い、元次郎さんは余命いくばくもない不治の病に冒されていく。1995年、メリ一さんの姿がハマから消えた。元次郎さんはメリ一さんを探す旅に出る。ハマの暗い裏面史を語りながら、その底に浮かび上ってくるのは、それでも生きることは素晴らしい、人生は生きるに値するという、人間信頼の熱い熱い炎である。正に、限りない“人間贊歌”が奏でられるのだ。この映画のラストシーンの美しさを何に例えればいいのだろう。ボクらはメリ一さんの新しい顔を見る。あのラストシーンをボクらは生涯忘れないだろう。“そして、人生は続く”のだ。

5:50PM 「ゆれる」(119分)

(作品賞、監督賞、脚本賞、主演男優賞)

監督・脚本=西川美和 撮影=高瀬比呂志 照明=小野晃

音楽=カリフラワーズ 配給=シネカノン

出演=オダギリジョー、香川照之、伊武雅刀、真木よう子、木村祐一
2006年度の日本映画界に衝撃を走らせた西川美和監督渾身の一作である。青く深い渓谷の吊り橋からひとりの女が転落死する。その場に居合わせた兄(香川照之)は殺人容疑で逮捕され、目撲証人として弟(オダギリジョー)は法廷の場に立つ。はたして事件か事故か。ふたりの関与は。裁判を通じて、信じあえていたはずだった兄弟の、心に秘めた確執が明らかにされていくが…。謎めいて美しく、人間の暗部を描いて鋭い。「ゆれる」に結集した映画人たちのこの一作に込めた思いの深さ、語り口に見られる技術水準の高さ、演技陣のアンサンブルの絶妙さ。すべてにおいて「映画の神」が与えた奇跡と呼ぶしかない、わずか119分の至福の旅。しかし、観終えて残るズシリと重い感銘は、西川美和脚本・監督が緻密に仕組んだ大いなる「映画の畏」でもある。わたしたち観客は正に“ゆれる”しかない。こんなすごい映画を生み出してしまった西川美和こそ謎そのものだが、人間存在の不可思議さに一条の希望の光を差しのべてくれるラストシーンに、映画ファン全員で拍手を送ろうではないか!

(7:50PM頃終演予定)

《2006年度日本映画各賞》

作品賞

「ゆれる」

西川美和監督作品 製作:『ゆれる』製作委員会

シネカノン配給 監督・脚本:西川美和 撮影:高瀬比呂志

照明:小野晃 音楽:カリフラワーズ

出演:オダギリジョー、香川照之、伊武雅刀、新井浩文、真木よう子、木村祐一、蟹江敬三

監督賞

西川美和(「ゆれる」)

新人監督賞

中村高寛(「ヨコハマメリ一」)

脚本賞

西川美和(「ゆれる」)

撮影賞

石井勲(「ストロベリーショートケイクス」)

主演男優賞

香川照之(「ゆれる」)

主演女優賞

蒼井優(「ハチミツとクローバー」「フラガール」)

助演男優賞

笹野高史(「寝むの番」「地下鉄(メトロ)に乗って」「ダメジン」「アダン」「釣りバカ日誌17 あとは能登なれ ハマとなれ!」)

助演女優賞

吹石一恵(「雪に願うこと」「手紙」「明日の記憶」)

最優秀新人賞

中村優子(「ストロベリーショートケイクス」)

審査員特別賞

吉高由里子(「紀子の食卓」)

「ヨコハマメリ一」(中村高寛監督)

《2006年度日本映画ベストテン》

第1位 「ゆれる」(西川美和監督)

第2位 「フラガール」(李相日監督)

第3位 「嫌われ松子の一生」(中島哲也監督)

第4位 「雪に願うこと」(根岸吉太郎監督)

第5位 「かもめ食堂」(荻上直子監督)

第6位 「ヨコハマメリ一」(中村高寛監督)

第7位 「ストロベリーショートケイクス」(矢崎仁司監督)

第8位 「やわらかい生活」(廣木隆一監督)

第9位 「博士の愛した数式」(小泉堯史監督)

第10位 「時をかける少女」(細田守監督)

次点 「紙屋悦子の青春」(黒木和雄監督)

